

## インターバンクの声（2014年11月20日）

ドル円相場は、火曜日18日のニューヨーク市場から大きな修正もないまま、ほぼ一直線にドルの上昇が続いている。日本時間未明（NY午後2時）、10月28-29日開催の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨の発表後、ようやく議事録内容から一旦ドル売りに転ずるかと思わせるような下げがあったが、低下気味だった米長期金利が上昇に転じたこともあってかドルの買戻しの勢いが強くなり118円台を付けてしまった。118円台の相場は、実に2007年8月以来のようだ。ユーロ、豪ドル、英ポンドなどもそれなりに荒っぽい動きを見せているが、極端に取引レベルが変わっているわけではない。しばらく時間がかかると思われていたドル円120円達成もあと2円ほどとなれば射程圏内だ。既にドル買い持ちの人たちは利食いの売りを躊躇い、ドルを買えていない人たちは大き目のドル下落局面を待つもののその機会がなく買えずにいるようだ。不安を持ちながらも依然としてドル買い相場の継続とは思っていても手が出し難いと言う典型的な相場だ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。